

## 平成27年度 第1回平塚市食育推進会議 会議録

日時 平成27年(2015年)8月5日(水) 午後2時00分から午後3時30分まで  
会場 保健センター 3階 会議室1、2  
出席者 森政委員、野戸谷委員、石田委員、加藤委員、山田委員、岩田委員、三浦委員、永瀬委員、  
山中委員、守泉委員、佐藤委員、松本委員、國正委員、伊藤委員、石室屋技師(平塚保健福祉事務所・上月主査欠席のため代理出席)(計15名)事務局  
欠席者 添野委員

### 1 開 会

本日傍聴の方はなし。

#### (1) 委嘱状交付

宮川課長：今年度は委員の任期満了に伴う、委員の改選があったため、高橋健康・こども部長から委嘱状の交付を行う。

#### 開会のあいさつ

高橋部長：委嘱状を交付させていただいたが、これから2年間という任期の中で、会議の運営にご尽力を、よろしく願いたい。

本会議は食育推進委員会として当初発足したが、平成25年から条例を制定し、現在の食育推進会議と改めている。会議では平塚市食育推進計画の策定等について審議し、その実施を推進するものである。今年度は、前計画を踏まえて平成27年3月に策定した、第2次平塚市食育推進計画の計画期間の初年度であり、本日は第2次計画の概要について説明するとともに、昨年度までの取組み及び第2次計画の取組みについて皆様に説明をさせていただく。

平成17年に食育基本法が制定され、「食育とは生きるための基本的知識であり、道徳、徳育、体育の基礎となるべきもの」と記され、大変重要なものと考えている。食育を推進していくためには、行政機関や関係団体が連携・協力し、市民自らが食育を実践していくことを推進できるよう「情報の共有化」も求められている。そのために、本日も貴重なご意見をいただきたいと思いますと考えており、よろしく願いたい。

#### 委員自己紹介

#### (2) 会長・副会長の選出

鎌倉女子大学の森政委員を会長に、湘南農業協同組合の野戸谷委員を副会長に選出した。

会長あいさつ

前回の計画策定に引続き、精一杯がんばっていくので、ご協力をよろしくお願ひしたい。本年度は第2次平塚市食育推進計画の計画期間の初年度となる。昨年度までは本計画の立案を中心に会議を開催し、委員の協力のもと計画が策定された。日頃より食に携わっている委員からの貴重な意見をいただき、本計画を推進していきたい。時間を有効に使いながら、多くの委員からの発言をいただけるよう、また、円滑な会議の運営についてご協力をよろしくお願ひしたい。

## 2 議 題

(1) 第2次平塚市食育推進計画の概要について（参考資料1・2）

事務局：「第2次平塚市食育推進計画」について説明。

会 長：質問等はあるか。

伊藤委員：よく出来た計画だというのが感想である。気が付いたことは、最近の食生活についてまとめてみると、腸内についての短歌を紹介する。「消化物 肛門でれば うんのつき 資源にされず 金かけ廃棄」「賞味期限 時過ぎて 卓から消えるエネルギー 味方変えれば価値観上がる」「過ぎたもの 質を知らねば廃棄かな 本質帰れば循環基本」このように、環境問題から食生活へいろんな線がでて、最近では「酵素の力」という本、これは外国人の本で日本人が翻訳したものだが、翻訳した方は亡くなったが、本を書いたハウエルさんは100歳ほど生きた。なにかというと、動物は病気にならないのになぜ人間は病気になるのかということだ。家庭でペットを飼うようになってから動物の病気が増えた、それを追及した人が「酵素の力」の人である。もう1冊は「養生訓」という江戸時代の貝原益軒という人が書いた本だが、これは最近で「そうではない」という科学的な考え方もあるが、私は歳をとってから、いろいろなことを知ってこれを実践しようとして、気が付いたのはミトコンドリアについてだ。

会 長：質疑応答の時間は後程設けさせていただくが、現在の時間は事務局からの計画概要に対する質問をいただけるとありがたい。

伊藤委員：質問というよりは、もう少し深く考えてほしいこととしてこれから言おうと思っているのが、「歯のこと」「食べ方のこと」が加わればいいのではないかということだ。

会 長：計画の中に「歯のこと」「食べ方のこと」を付け加えればよいというご意見でよいか。

伊藤委員：習慣付けていくためには、今新しいものがたくさんあるわけだから、効果的に一番現れてくるのが、医療費である。

会 長：第2次計画については前年度まで検討が重ねられて練り上げた計画であるが、この計画についての質問や不明な点があればお願ひしたい。

伊藤委員：計画については、よくできていると思うが、いま言ったことは知っている人は少ないと思うが、計画の中の行事などに取り入れてもらえるよう、ディスカッションしていき、今は新しいことがどんどんあるので、付け加えてもらえるとう健康な方が増えていくのではないかとということである。

会長：意見の内容としては「歯の健康について」「食べ方について」、現在の計画の中にも盛り込まれているが、今後の事業計画の中で充実を検討してほしいということによろしいか。

伊藤委員：はい。

会長：他の意見や質問がないようなので、次の議題に移る。

## (2) 食育推進計画の事業に関する調書について（資料3）

会長：事務局より資料3の「食育推進計画の事業に関する調書について」をご説明をお願いします。

事務局：平成26年度平塚市食育推進計画の事業に関する調書・次期（平成27年度）取組概要について説明。

- 1 平成25年度調書から平成26年度取組の展開の変更
- 2 平成26年度新規事業報告

「思春期食育推進事業」は委託先との協議の結果、平成26年度からは廃止。平成26年度より、「食育教室」として、より早い年代から適切な食習慣を身に付け、日本の伝統的な食文化への理解を深める機会として小学生や青壮年期である保護者を対象とした教室を実施した。

- 3 次期取組（平成27年度）の展開

庁内関係各課より提出された調書より、平成27年度の取組事業は65事業、そのうち継続事業62、拡充・充実する事業3という報告があった。

- 4 展開項目ごとの概要

拡充・充実予定の内容としては、マンパワーの充実や実施回数の増加などの予定が報告されている。

- 5 第2次平塚市食育推進計画 新規事業

第2次計画の基本方針に加わった「生涯におけるライフステージに応じた食育」に関する施策として、高齢者への食育に関する事業や計画の見直しとして追加された「歯科保健分野」に関する事業を挙げている。

3ページ以降は前計画までの事業実績と事業の成果、次期取組、第2次計画への位置づけの有

無を掲載している。委員の食育活動に関連のある事業について特に確認をしていただきたい。

第2次計画においても評価については実態調査で、進捗管理については、毎年の調書で行っていききたい。

会長：報告の取組内容は前計画の4つの基本方針に沿った事業内容の取組である。第2次計画では、文言が変わっている部分があるということと、国の方針を受けてライフステージに応じた食育も加わり、新しい方向性に向けた事業の充実が図られているということである。また、報告にもあったように、「思春期食育事業」は、ただ廃止したわけではなく、より若い世代からの習慣づくりを目的として学童期への取組に変更したということであった。これらの取組について、事務局への質問等あればお願いしたい。

永瀬委員：所属する保育所では、昨年度より健康課等の食育事業を利用している。媒体を使った食育に子どもたちは楽しみながら学ぶことができている、年々食べることへの関心が高まっている様子である。ぜひ、このような事業を継続して行っていただきたい。

会長：事業を上手に活用した保育園での取組により、年々発展が見られ、子どもたちは楽しみながら、食育を実践する様子が見られるようになってきたということであった。

伊藤委員：今、幼児の話がでたが、幼児期は永久歯を無くしていくというよい体験をする時期だ。その時期に子どもたちに重点的にわかりやすく教えて歯磨きを習慣付けるようにしていくこと、そして噛むことがどういうことが、脳まで影響するということや腸内環境がよくなっていくということまで、深く掘り下げたことをやっていくということ。なおかつ、食は小さいころから土、大地、川、水、そういったものから成り立ってできていくということ、その中に多くの方が携わっていて、いろいろな添加物、いろいろな種類のものを入れていくわけだが、なんでこうなるのか、ということが家庭で答えをだせるというか、話題がだせるということが食卓を囲むということにつながるのではないかと考えている。そういうところを親がすぐにアドバイスできるような、先ほどふれたミトコンドリアのような、ミニ断食の効果などいろいろあるわけだが、そういったことをちょっとしたアドバイスができるような環境づくりが家庭での食育であり、学校での給食や授業で行われること、また土づくりについては例えば枯葉を集めて、農協の方がいるのでご存じと思うが、この食物にはこの葉っぱがよいとか、どういう葉っぱを集めてくれませんかと提案して、その結果こういう食物ができましたと、それによって品評会で1位になりました、お祝いしましょう、お祭りしましょうといったことができれば非常に関心を持ち、生涯にわたって食育に対しての学びが続くと思う。生涯学習にもつながるし、そんなことをどこかにいれて充実したものに平成27年度は取り組んでいただけたらと思う。

会長：今のご意見をいただき、計画は来年度以降も実行されていくが、それぞれの食の分野の方々がいるので、それぞれの活動の実行の場でご検討をいただくことで、事業につながりやすいのではないと思う。事務局からはなにか補足があるか。

事務局：ご意見いただいた噛むことの大切さを普及する事業は、今回の計画内にも取り入れている。栄養士や他職種が実施している内容もあるので、情報を共有していきたいと考えている。

伊藤委員：結果を知る上で成果を得るには歯科医療費と循環器系の医療費の比較があるとよい。

会長：ご意見はよくわかるが、この計画の推進だけでは、医療費に直結するとは言えない部分が多い。平塚市では医療費のデータは別の形で出し評価していると思うので、そちらを確認してはいかかがか。

事務局：医療費に関しては市が保険者になっている国民健康保険について、別計画での分析データは持っている。

会長：今回の事業報告では平成26年度の事業結果を主に報告があったが、この内容について他に意見がないようなので、次に進む。

### (3) 平成27年度の予定について(資料4)

会長：事務局より「平成27年度平塚市食育推進計画 予定表」について説明をお願いします。

事務局：資料4「平成27年度平塚市食育推進計画 予定表」について説明。  
本会議は年2回開催を予定しており、第2回推進会議は3月頃開催予定。

## 3 その他

会長：その他について事務局よりあるか。

事務局：配布資料「平成26年度平塚市食育推進の取組調査票」は委員より提出いただいた。本会議において、食育の推進状況として報告しているものは、庁内関係各課より調書として提出してもらい進捗管理しているが、多くの食に関する分野で活躍している委員の取組の状況を本会議でうかがっているため、ご提出いただいた。本調書を確認いただき、各委員の活動の中で連携できる事項等にご活用いただきたい。

会長：活用いただき、ますますの活動の発展につなげていただければと思う。

山田委員：地域で高齢者福祉の分野で栄養士をしている。今回ライフステージとして高齢者が含まれているが、よく意見として挙がるのが、地域包括支援センターのソーシャルワーカーが食事について対象者や家族から相談を受けるため、アドバイスや情報が欲しいということである。食事はやわらかくすればよいか、介護者等提供する側や本人がどのように作ればよいか、どのようなものを購入すればよいかなど、地域包括支援センターとの連携を食育という分野でも実現していけると、生涯におけるライフステージに応じた食生活の高齢者について充実が図られると思う。

会 長：ライフステージにおける食育が本計画のひとつの柱として挙げられる中で、地域包括支援センターと連携することが、在宅で過ごす高齢者の方への食育の充実が図られることにつながる、というご提案であった。

事務局：高齢福祉課は本計画進行会議の構成員であり、連携をしていきたい。

伊藤委員：関連するが、先ほどの幼児のところと高齢者は同じだと思う。片方はわからない、片方はわかってきたけど失敗した、これからどうするのということだ。要するに年代によって食生活を変えなくてはいけないのに、そのことがわからないでいるからメタボになったり、病気になってみたりということだ。病気は食によって治っていくことはたくさんあり、アメリカでは消化物を移植することによって性格まで変わってしまったということだ。昔から「おしっこ健康法」などもあるが、排泄物を動物などはなめる。人間はそこまでやれとは言わないが、少なくともエネルギーの問題も含めて高齢者が知恵を巡らせることによって老人の脳が活性化して、元気になって発言をしたり、活動できたりするわけだ。たとえば四国では、いままで老人施設にきていた人がなくなってしまった。どうしてかということ、忙しくていけなくなったということ、葉っぱを集めて出荷して活性化したということだ。老人の医療費を削減するには食べ物の食べ方、とり方、作り方および自分のまわりにあるものを利用できないか、いろいろな人に伝えられないか、といろんなことを張り巡らせていくには意識意欲をもっているかで変わってくるわけだ。そういったことがすべてに生きていく。家庭菜園をやっていると動物との戦いだ、という葉っぱがどういうものにできあがるということは農家がよく知っていることだ。そういったことを知って食べ物と自然界、自分が結びついていくことにより、脳が絶えず活性化していく。落ち込むことがあっても、寝れば治る、食べれば治る、今日は早く寝ようなどいろいろな解決策が瞬時に見えてきて、どこかに覚悟が生まれて生活の中に生かされていく。そういったことを反映するような行政の窓口を設けるなど、そんなことを含んだ推進計画にしてもらえると市民が元気になり、医療費が減り、平塚市が食育のまちとして繁栄する流れができるのではないかと。

会 長：窓口が必要という意見か。

伊藤委員：こういった会議の場で発表したことが生かされること、それによって刺激されて目安箱みたいなものができるなど、横の連携が必要になる。行政は縦割りだといわれるが、横の情報の共有がされ、食は食物、動物、環境がすごく関わっている問題だと思う。

会 長：今回は食育推進計画に関する会議なので、概要を要約してほしい。

伊藤委員：食育は一生涯にわたるものだといいたい。

会 長：本当にその通りである。

伊藤委員：最後に、ミトコンドリアが元気になる方法をどれだけの人知っているかをここにいる全員

に調べていただきたい。冗談である。

加藤委員：告知をする。9月27日（日）に村井弦斎まつりを弦斎公園にて開催する。また、同日に市民活動センターにて弦斎まつりと共催という形で食に関する展示等の催しを行う。

会 長：本日の議題は以上である。

#### 4 閉会

次回の会議開催予定は、3月頃。

以 上